

～下記の研究を行います～

京都医療センターでは、以下の臨床研究を実施しております。

【研究課題名】

基質拡張型 β -ラクタマーゼ(ESBLs)産生グラム陰性桿菌血症に対してセフメタゾールの投与量および投与期間が有効性に与える影響

【研究責任者】

村津 圭治

【研究の目的】

薬剤耐性遺伝子の1種である基質拡張型 β -ラクタマーゼ(extended-spectrum β -lactamase : ESBLs)産生遺伝子は大腸菌などを中心に院内のみならず院外においても検出数が増加しています。ESBLs産生菌による重症感染症にはカルバペネム系抗菌薬が第一選択で使用されてきましたが、カルバペネム耐性菌の増加も社会問題化しており、過剰使用は控える必要があります。近年、ESBLs産生菌感染症に対してカルバペネム系抗菌薬を温存してセファマイシン系抗菌薬が選択される機会が増えていますが、投与量および投与期間を含め菌血症(血液中に菌が入った状態)に関する治療報告は不足しています。今回、ESBLs産生菌血症に対してセファマイシン系抗菌薬であるセフメタゾールの投与量および投与期間が有効性に与える影響について過去の電子カルテ記録から調査を行います。

【研究の対象症例集積の期間】

2016年10月1日から2020年9月30日

【研究の期間】

2021年1月19日から2021年6月30日

【研究の方法】

後ろ向き観察研究

○対象となる患者様

京都医療センターにおいて血液培養からESBLs産生菌が検出され、治療された患者様

○研究に用いる資料・情報の種類

年齢、性別、体重、検査値、抗菌薬の投与量および投与日数など

【研究の資金源】

特になし。

【利益相反】

臨床研究における利益相反(COI:Conflict of interest)とは、「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、製薬企業や医療機器メーカーから研究者へ提供される謝金や研究費、株式、サービス、知的所有権等がこれにあたります。本研究は、特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではありませんが、利益相反については、当院の利益相反審査委員会で適切に管理されています。

◎本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問合せ下さい。

◎ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

◎資料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、患者さんの診療等に不利益が生じることはありませんのでご安心ください。

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 薬剤部
〒612-8555 京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1
電話 (075) 641-9161 (代)
研究責任者 薬剤部 村津 圭治